

# 大阪府本部だより

2026.1.1. 発行 Vol. 43, No. 12 通巻 第 327 号

発行人：吉田義隆

## ◇ 新年のご挨拶 ◇

全日本写真連盟 関西本部長  
全日本写真連盟 大阪府本部長  
(朝日新聞大阪本社映像報道部長)

橋本 弦



あけましておめでとうございます。旧年中は全日本写真連盟の活動にご参加、ご協力いただき、ありがとうございました。

最近、世の中の変化が本当に早いと感じませんか？ 大阪駅周辺の風景も様変わりし、外国人旅行者が増え、お米もランチの値段も気がつけば驚くほど高くなりました。なかでも生成AIの社会への浸透は、この1年で急速に進んだ感があります。

映像の分野では、昨秋登場した動画生成AIの「Sora 2」は衝撃でした。風に揺れる髪の毛、表情の自然さ、なめらかな動き、物体の表面や肌の質感、光と影の表現…。描き出された映像はもはや現実との区別も困難です。今や手に入れたと思った風景や被写体の映像を、部屋にいながら誰でも簡単に手に入れられる時代になりつつあります。

そんな時代に写真を撮る意味って、何でしょうか？ 写真の価値が構図や色彩といった平面に表現される画像そのものにある

のなら、過去の「良い」写真を学んだAIに人がかなわない日が来るかもしれません。でも、写真を見るときに考えている事って、映像そのものよりも撮影に至るプロセスとか、ファインダーの向こう側にいる撮影者の世界の捉え方とか、被写体との関係性とか、そういうことを見ているのだと感じています。

真似をするだけでは到達できない何か、そこに撮影者の独自性が現れるのだと思います。写真とは結果ではなく、行為そのものなのです。

今年はどんな場面に遭遇し、シャッターを切るのか。みなさんの写真を見るのを楽しみにしております。

## 万博開催記念コンテスト 審査結果発表

### 〈総評〉

55年ぶりに大阪で開催された大阪・関西万博。開催前には準備の遅れや入場者数や採算への不安の声があったものの、蓋を開けてみれば2500万人を越える来場者を動員し半年の会期を盛況のうちに終えました。

2025年という年を象徴するイベントとなった万博の開催を記念し、今回「万博開催記念コンテスト」を開催しました。

万博会場で撮影された写真や万博が開催されている「今」の空気を感じさせる写真

もありましたが、それ以外にも風景やポートレートなど多種多様な写真が寄せられました。

日常の何げない光景を切り取った優秀なスナップショットも多かったですが、スマートフォンで撮影した写真を SNS で表現するという時代を反映してか、色彩や造形といった部分で枠にとらわれない自由な作風の写真も印象的でした。

**審査委員** イルコ・アレクサンダロフ（審査委員長）、全日本写真連盟 関西本部長 橋本弦、全日本写真連盟 総本部理事兼関西本部委員長 山中健次、水谷八重子

●金賞

「神域の夜明け」榎本治道（大阪府）

●銀賞

「初 切」武田眞里（兵庫県）

「水遊び」服部京子（静岡県）

●銅賞

「雲海染まる頃」東 千佐子（大阪府）

「横 列」岩室典雄（大阪府）

●入選

神部 保（神奈川県）、庭野茂子（埼玉県）、渡辺裕一（岐阜県）守實直之、山本芳子、汐崎俊夫、増田結花、藤田緑郎、高部弘司、藤本幸男、（以上大阪府）、大道善彦（京都府）、梅田充紀、西村充康（以上奈良県）

## 高校生入賞者

●イルコ賞

「絶望の底」江村和葉

（大阪府立四條畷高等学校）

●銅賞

「わたし」前田怜奈

（大阪府立成城高等学校）

●入選

「プレッシャー」小串明璃（和歌山県立田辺高等学校）「あなたは私のもの」新里 じゅんの（沖縄県立美来工科高等学校）



「神域の夜明け」榎本治道



「絶望の底」江村和葉



「初 切」武田眞里



「水遊び」服部京子

# 秋の撮影会 審査結果発表

## 〈審査委員長 総評 鍋釜一詩〉

入賞、入選された皆様、おめでとうございます。

今回のコンテストは、「枚岡神社の秋郷祭」の自由撮影会という事でした。

応募作品を見てみますと、宮入りする神輿と、その担ぎ手を撮った作品。祭りのスナップを撮った作品と、大きく見て2つに分かれました。

作品の数としては「宮入り」の方が多いように思いましたが、同じような内容の作品が多く見られました。その中でもテーマがはっきりとわかり、伝わる作品を探して、さらに絞っていきました。

一方、スナップ写真を選んでいて気になったのは、主役がはっきりわからないものや、遠慮がちに撮った作品。いらぬ余計なものも写し込んでいる作品など、「こうすれば良かったのに」と、惜しい作品もありました。「何を外して、何をに入れるか」と云う事が問われます。

また、この祭りが初めての方もおられるかと思いますが、祭りの流れを知ること重要であると思います。これらに気をつけられて、今後の作品作りに励んで下さい。

**審査委員** 鍋釜一詩（審査委員長）、毛利秀明、高橋憲一

### ●推薦

「青春譜」長尾伸明（和泉市）

### ●特選

「祭りを見守る」山本弘美（守口市）

### ●準特選

「おもろいわ！」汐崎俊夫（守口市）

「はい！ポーズ」古地愛子（大阪市）

### ●入選

斉藤 貴、青山光男、木下修二、  
安田浩二（以上大阪市）

太田和夫、大塚雅則（以上吹田市）

中野弘喜（東大阪市）

「青春譜」長尾伸明（4枚組）



（4枚組み 左）



（4枚組み 右）

## 読者の広場

<茨木支部第41回写真展>



【茨木支部「百石踊り」柴田 安雄】

2024年11月23日、三田市の駒宇佐八幡神社で、百石踊りが行われました。

天候も不安定の中で奉納の時間が迫り、世話人、参加者、付添人の方々が食事の準備や衣装を着替えたりし、百石踊りの準備をしていました。

社務所の付近では参加者が集まりかけている時間になるころ、通り雨が上空を通過して雨が降り出したところ、参加者の位置から正面になる所を探してチャンスを待って撮影しました。

<フォト小町・写楽2008合同写真展>



【写楽2008「花の下で」菅野みね子】

池田市の水月公園の梅を撮りに行きました。素敵な親子連れが目に入り、近くの東屋で少しお話をしました。若い母親は一眼レフのカメラ持参で我が子を撮りに来ているとのことでした。

小さな兄弟はモデルさながら完璧にコーディネートされていました。更に撮影の為に様々な物を準備されていました。

お母様にお子様達の撮影許可を頂き撮影した作品です。

その日の私の最高の作品になったことは言うまでもありません。

**2026年度会費の支払い方法が変わります。**

2026年度継続会費の振込用紙は、フォトアサヒに封入せず、「はがきタイプ」の振込用紙で届きます。

はがきタイプの振込用紙で、コンビニエンスストアで継続会費を納入します。

**2025年12月末から2026年1月初旬にかけて届きます。**

### 写真展のご案内

第4回フォトくらぶ令和展

2月6日(金) 2月12日(木)

富士フィルムフォトサロン大阪

第41回枚方写真クラブ展

3月18日(水)～3月23日(月)

枚方市総合文化芸術センター

〒530-0005 大阪市北区中之島 2-3-18

全日本写真連盟大阪府本部

Tel:06-6201-8006 Fax:06-6201-0285

メール: nissyaren@osaka.email.ne.jp